

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22019

学校名：新光小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

分析

<p>体力・運動能力 ＜男子＞</p>	<p>○全国平均とほぼ同程度～やや上回っている種目 ・握力 ・長座体前屈 ・反復横跳び</p>	<p>▲全国平均と同程度～下回っている種目 ・上体起こし ・20m シャトルラン ・50m走 ・立ち幅跳び ・ソフトボール投げ</p>	<p>・「なわとびの日」の定期的な設定や「外遊びの奨励」等、運動に親しむ活動を継続して行ってきたことが、男女ともに、運動能力の向上につながっていると考えられる。</p>
<p>体力・運動能力 ＜女子＞</p>	<p>○全国平均とほぼ同程度～やや上回っている種目 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・ソフトボール投げ</p>	<p>▲全国平均と同程度～下回っている種目 ・反復横跳び ・20m シャトルラン ・50m走 ・立ち幅跳び</p>	<p>・課題であった、柔軟性（長座体前屈）については、男女ともに全国平均とほぼ同程度となっている。</p>
<p>運動・スポーツへの意識、 運動習慣</p>	<p>「運動やスポーツが好き、やや好き」 ・男子 100% ・女子 91.7% 「運動やスポーツを通じて交流したり つながりや一体感を感じたりすること」 ・男子 75% ・女子 69.4%</p>	<p>「体育の授業は、楽しい、やや楽しい」 ・男子 100% ・女子 85.5% 「体育の授業では、進んで学習に参加している」 ・男子 100% ・女子 95.5%</p>	<p>・敏捷性（反復横跳び、立ち幅跳び）については、まだ課題があることから、取組自体の見直しや更新、体育の授業以外でも、進んで体を動かす習慣づくりをさらに継続して推し進める必要がある。</p>

<p>三つの取組</p>	<p>① 体育・保健体育等の 授業の充実</p>	<p>② 授業以外で子どもの 運動機会を創出する取組</p>	<p>③ 子どもが自らの 健康づくりを図る取組の充実</p>
--------------	------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

<p>具体的な 取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題探究的な学習の推進 児童自らが課題や目標をもって、学習に向かうことができる授業を継続して行う。 ・ ICT(一人一台端末等)を活用した学習活動の充実 Chromebookの効果的な活用（動画教材やタイムシフト機能）を通して、個々の課題や目標に合わせた学習が展開できる授業を継続して行う。 ・ 体育の見方・考え方を働かせる授業の充実 「する・みる・支える・知る」が効果的に働くように一人一人に関わることで、運動に対する楽しさや喜びを味わうことができるようにする授業を継続して行う。 ・ 児童自らが運動能力の伸びを実感する場の設定 体育発表会に向けて「全学年 50m走のタイム」を「ふりかえりカード」に記録することで自分の伸びを実感するように継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なわとびの日」の取組の継続 毎月7の付く日を月に1～2回程度「なわとびの日」として設定し、全校一斉になわとび運動を行う。友達と一緒に取り組むことで運動の楽しさを実感できるようにする。児童自らが、筋力、持久力、集中力を高めるという目標をもって取り組めるよう、教師が声掛けをし、価値付ける。 ・ 運動機会の充実を図る環境整備の推進 ・ 三間（仲間、時間、空間）の創出により運動機会の充実を図る取組 【仲間】外遊びや全員遊びの推奨。 【時間】中・昼休みをしっかりと取れるよう、授業や清掃を時間通りに終わらせる。 【空間】休み時間にグラウンドで安全に遊べるよう、種目ごとにエリアを区切る。「全校跳び箱・マット週間」を設定し、準備の手間を省くことで運動時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭・栄養教諭の取組 「保健指導年間計画」「食指導年間指導計画」を作成し、各教科とも関連付けながら、健康や体力向上に対して関心を高められるよう、指導を充実する。 ・ 専門性を生かした出前授業の推進 助産師や歯科衛生士、保健師、学校薬剤師、スクールカウンセラー等の外部講師を招き、健康に関連した出前授業を行うことで、より高い専門性を生かした学習の機会を設定する。 ・ 児童自らが自己の生活を見つめ直す指導 児童自らが、健康で規則正しい生活の仕方や家庭でのスマホ・パソコン等の適切な使用について考え、改善していけるように繰り返し指導し、よりよい生活習慣を身に付ける。 ～健康三原則（運動・食事・睡眠）～
--------------------	---	---	--

家庭・地域との連携・協働

- 学校独自の児童アンケートや保護者アンケート等の結果をもとに児童の実態を把握し、小中一貫した取組のパートナー校とも連携しながら、家庭や地域と連携・協働した取組を行う。
- 近隣にある新川高校の運動系部活動の生徒をゲストティーチャーとして招き、運動する楽しさを一緒に体感できるような取組を行う。